

つ っなげよう未来へ！
し 市民協働による
ま まちづくり



令和元年度

組織目標の成果

～ 「協働型市政の確立」を目指して～



長崎県対馬市

… アジアに発信する歴史海道都市 対馬 …

～ 目 次 ～

I	組織目標の評価一覧	・・・・・・・・	1
II	組織目標の成果（個票）	・・・・・・・・	4
1	総務部	・・・・・・・・	4
2	しまづくり推進部	・・・・・・・・	8
3	観光交流商工部	・・・・・・・・	15
4	市民生活部	・・・・・・・・	21
5	福祉保険部	・・・・・・・・	24
6	健康づくり推進部	・・・・・・・・	26
7	農林水産部	・・・・・・・・	28
8	建設部	・・・・・・・・	35
9	水道局（部）	・・・・・・・・	37
10	中対馬振興部	・・・・・・・・	39
11	上対馬振興部	・・・・・・・・	40
12	消防本部	・・・・・・・・	42
13	教育委員会事務局	・・・・・・・・	45

令和元年度 対馬市組織目標の評価一覧

部署	コード		目 標	評 価
	全体	個別		
総務部	1	01-01	情報発信の強化と広聴機会の開催	△
	2	01-02	安全安心のまちづくりの推進	△
	3	01-03	健全な財政運営の執行と財政状況のわかりやすい公表	○
	4	01-04	入札・契約の適正化	○
しまじくらの推進部	5	02-01	第2次対馬市総合計画の進捗管理の実施	△
	6	02-02	第1期対馬市まち・ひと・しごと創生総合戦略の効果検証及び第2期戦略の策定	○
	7	02-03	国際航路の国内旅客混乗便の利用促進	◎
	8	02-04	様々な機関や業種団体と連携した産業の振興	○
	9	02-05	大学と地域との連携推進（域学連携）	○
	10	02-06	地域マネージャー活動活性化事業	△
	11	02-07	U・Iターン推進事業	◎
観光交流商工部	12	03-01	観光客の受入体制の整備	△
	13	03-02	地場産品の更なる消費拡大への取組み	△
	14	03-03	新規参入事業者の誘致と既存事業者への支援による商工業の活性化	△
	15	03-04	国際交流イベントや朝鮮通信使行列の世界記憶遺産登録を活用した交流人口拡大	△
	16	03-05	ツシマヤマネコ・生物多様性保全活動の推進	○
	17	03-06	対馬固有の遺跡や文化財の保存・活用	△
市民生活部	18	04-01	滞納処分の強化	△
	19	04-02	各種団体が連携したリサイクル、ゼロ・エミッションの推進	△
	20	04-03	漂流・漂着ごみの回収と発生抑制対策の推進	○
福祉保険部	21	05-01	高齢者の生きがいの創出	△
	22	05-02	入所保留（待機）児童の解消	△

部署	コード		目 標	評 価
	全体	個別		
健康 推進 部	23	06-01	特定健診の受診率向上	○
	24	06-02	認知症ケア向上研修事業の実施	○
農林 水産 部	25	07-01	対馬しいたけ振興事業	△
	26	07-02	対馬猪鹿活用促進事業	○
	27	07-03	学校給食地場農林水産物導入事業	△
	28	07-04	島内での地元産鮮魚・活魚等の供給システムの構築	○
	29	07-05	水産物の輸送費補助	△
	30	07-06	海洋保護区の設定	○
	31	07-07	基盤整備工事の早期発注、早期完成	△
建設 部	32	08-01	市営住宅使用料未収金の縮小	△
	33	08-02	公共工事の早期発注・早期完成	◎
(水道 局)	34	09-01	水道料金の収納率向上	△
	35	09-02	水道事業の有収率向上	○
中興 対馬 部	36	10-01	中対馬未来づくりアクションプラン 個別事業の実現化準備	○
上興 対馬 部	37	11-01	対馬の自然を活かした観光地の整備	○
	38	11-02	公共工事の早期発注・早期完成	△
消防 本部	39	12-01	地区消防団員の増員、車両の適正配置及び資機材の充実配備	△
	40	12-02	応急手当の普及啓発活動	△
	41	12-03	重大違反対象物への消防用設備等設置指導	△
教育 委員 会 事務 局	42	13-01	島っこ留学制度による留学生の招致推進	◎
	43	13-02	ふるさと対馬を愛し、豊かな心と確かな学力を身に付けた子どもの育成	○
	44	13-03	地域の特性を活かした生涯学習の推進	△
	45	13-04	文化財の保存・活用（対馬藩関連遺産群保存活用計画の策定）	○
	46	13-05	文化財の保存・活用（赤米サミット・赤米交流事業の開催）	◎

■ 集 計 表

項 目		結 果
◎	目標を上回る実績	5
○	目標どおりの実績	17
△	目標を下回る実績	24
×	目標を著しく下回る実績	0
—	評価不能	0
計		46

全体	1
個別	01-01

令和元年度 [総 務 部] 目標の成果

課 名	総 務 課
-----	-------

区分	項 目	情報発信の強化と広聴機会の開催
1	【 内 容 】	<p>市政への関心を高めるとともに行政を身近に感じてもらうため、対馬市CATVを活用した「おしえて！市役所さん」を引き続き放送するとともに、新たにSNSを活用し、行政情報の発信を強化します。</p> <p>また、市長への提言や意見交換などにより、市民の声を市政に反映させる、市長へ提言「かっちえて！しまづくり」及び地域よりあいde「ごっくばらん」の定期的な開催に加え、新たな広聴機会を確立し、市民協働のまちづくりを推進します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ SNSを活用した行政情報発信の強化 <ul style="list-style-type: none"> SNSを活用した情報発信体制を構築し、市内外への情報発信強化を図ります。 ○ 新たな広聴機会の確率：年3回 <ul style="list-style-type: none"> 小中学校や子育てサークル、老人クラブなど定期的かつ精力的に活動している団体へおじゃまし、地域づくりなどについて意見交換を行います。 <p>【 指 標 】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ SNSを活用した情報発信体制の確立 ○ 新たな広聴機会の実施：年3回
2	【 実 績 (成 果) 】	<ul style="list-style-type: none"> ○ SNSを活用した情報発信体制の確立 <ul style="list-style-type: none"> ・ 活用検討会を開催し、運用するSNSを「facebook」と「LINE」に決定しましたが、開設までは至っていません。 ○ 新たな広聴機会の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・ 産業別及び年代別団体（商工会・漁協青年部、子育てサークル、介護予防活動団体等）を訪問し、活動への参加や意見交換を実施する「ヒントにピント！市長室」を年8回実施しました。
3	【 評 価 】	<p style="text-align: center;">△</p> <p>SNSについては、運用ガイドライン及び運用ポリシーを策定したものの、令和2年度に対馬市公式ホームページのリニューアルに伴う、連動した活用を検討する必要が生じたため、さらに、長崎県市町村行政振興協議会によるLINEを活用した窓口申請業務の共同化も協議が進められていることから開設には至っていません。また、新たな広聴機会については、申し込みを受けて実施する既存の広聴機会から、産業別及び年代別団体などターゲットを絞った新たな訪問型広聴機会「ヒントにピント！市長室」を開催し、テーマを明確にしていることで、貴重な意見を伺うことができ、その役割を十分に果たしていると思われます。</p>
4	【 今 後 の 展 開 】	<p>SNSについては、令和2年度にリニューアルする対馬市公式ホームページと連動させ、情報発信の強化ツールとして令和2年度中の開設を目指します。</p> <p>また、広聴機会については、「ヒントにピント！市長室」は次年度以降も実施しますが、昨年度実績がなかった提案型の「市長に提言！かっちえてしまづくり」及び、地区交流型の「地域よりあいdeごっくばらん」については、実施方法や申込要件などを見直し、実績のあるヒントにピントとの統合を含めた検討を行い、行政を身近に感じていただけるだけでなく、気軽な広聴機会の創出に努めます。</p>

全体	2
個別	01-02

令和元年度 [総 務 部] 目標の成果

課 名	総 務 課
-----	-------

区分	項 目	安全安心のまちづくりの推進
1	【 内 容 】 洪水、豪雨、高潮、地震等の災害に対して、地域住民の自助・共助による取り組みを促進するとともに、防災・災害対策に取り組む組織的な体制を整備することにより、安全安心のまちづくりを図ります。	
組織目標	【 指 標 】 ・ 自主防災活動を支えるネットワークの構築 ・ 防災関係の各種計画・例規等の整備 ・ 「空家等対策計画」の作成	
2	地域住民の自助・共助による取組の促進のため、啓発を行うとともに、自主防災組織の結成のため協議を重ねております。 組織的な防災体制の構築については、各種マニュアル案の検討を行うとともに、個別の例規等の策定にとどまらず、最上位の計画である地域防災計画の改正を含め、防災関係の各種例規等について総合的に調整することとし、全体の調整方針について検討を行いました。	
実績（成果）	・ 自主防災組織の新規結成 0 件 ・ 災害時職員初動マニュアルの策定 ・ 「空家等対策計画」の素案を作成	
3	△ ・ 自主防災組織の結成促進については、新規結成 3 組織との目標に対し、実績は 0 組織の結成には至らなかったが引き続き結成に向け、区長をはじめとする各関係者と協議中です。 ・ 防災関係各種マニュアル等の整備については、災害時職員初動マニュアルを改定しました。 ・ 「空家等対策計画」の素案を作成しました。	
4	自主防災組織の結成促進のため、引き続き自主防災活動の重要性等について啓発を行い、結成促進を図ります。 防災関係の例規等については、いずれも重要なものではありますが、全体の調整方針に沿って策定の優先順序を設け、まず防災体制組織や職員配備基準等を定めた職員初動マニュアルの改訂を行い、次いで業務継続計画をはじめ各種例規・マニュアル等について整備を進めます。 空き家等対策計画の素案を作成しましたので、今後、策定し、周知を図ります。	
今後の展開		

全体	3
個別	01-03

令和元年度〔総務部〕目標の成果

課名	財政課
----	-----

区分	項目	健全な財政運営の執行と財政状況のわかりやすい公表																			
1	<p>【内容】</p> <p>市の財政状況や予算・決算などについて、広報・ホームページにわかりやすい形で掲載し、市の財政状況に関する市民が理解を深められるように努めます。</p> <p>【指標】</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 60%;">公表項目</th> <th style="width: 20%;">ホームページ</th> <th style="width: 20%;">広報</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和元年度当初予算概要</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">○</td> </tr> <tr> <td>平成30年度下半期及び令和元年度上半期予算の執行状況</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">○</td> </tr> <tr> <td>平成30年度決算</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">○</td> </tr> <tr> <td>平成30年度健全化判断比率及び資金不足比率</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">-</td> </tr> <tr> <td>平成30年度財務書類（財務4表）</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">-</td> </tr> </tbody> </table>	公表項目	ホームページ	広報	令和元年度当初予算概要	○	○	平成30年度下半期及び令和元年度上半期予算の執行状況	○	○	平成30年度決算	○	○	平成30年度健全化判断比率及び資金不足比率	○	-	平成30年度財務書類（財務4表）	○	-		
公表項目	ホームページ	広報																			
令和元年度当初予算概要	○	○																			
平成30年度下半期及び令和元年度上半期予算の執行状況	○	○																			
平成30年度決算	○	○																			
平成30年度健全化判断比率及び資金不足比率	○	-																			
平成30年度財務書類（財務4表）	○	-																			
2	<p>・財政状況等公表状況</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 60%;">公表項目</th> <th style="width: 20%;">ホームページ</th> <th style="width: 20%;">広報</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和元年度当初予算概要</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">○</td> </tr> <tr> <td>平成30年度下半期及び令和元年度上半期予算の執行状況</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">○</td> </tr> <tr> <td>平成30年度決算</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">○</td> </tr> <tr> <td>平成30年度健全化判断比率及び資金不足比率</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">-</td> </tr> <tr> <td>平成30年度財務書類（財務4表）</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">-</td> </tr> </tbody> </table>	公表項目	ホームページ	広報	令和元年度当初予算概要	○	○	平成30年度下半期及び令和元年度上半期予算の執行状況	○	○	平成30年度決算	○	○	平成30年度健全化判断比率及び資金不足比率	○	-	平成30年度財務書類（財務4表）	○	-		
公表項目	ホームページ	広報																			
令和元年度当初予算概要	○	○																			
平成30年度下半期及び令和元年度上半期予算の執行状況	○	○																			
平成30年度決算	○	○																			
平成30年度健全化判断比率及び資金不足比率	○	-																			
平成30年度財務書類（財務4表）	○	-																			
3	<p>○</p> <p>当初予算をわかりやすく説明した「対馬市のしごと 令和元年度の予算」を作成し、市内全世帯に配付するとともに、ホームページに掲載しました。</p> <p>平成30年度の決算状況についても公表しました。</p> <p>統一基準による財務書類（財務4表）（平成30年度分）を作成し、ホームページに掲載しました。</p>																				
4	<p>今後ますます厳しい財政状況となることが予想されるので、しっかりとした財政見通しを立て、健全な財政運営に努め、市の財政状況について市民にわかりやすい形で公表していきます。</p>																				
今後の展開																					

全体	4
個別	01-04

令和元年度 [総 務 部] 目標の成果

課 名	財 政 課
-----	-------

区分	項 目	入札・契約の適正化
1	【 内 容 】 常に入札契約制度の検証を行い、公正性の確保・客観性・透明性の向上に努めます。また、現下の経済情勢を考慮し、国・県の動向と歩調が合う落札率となるよう運用を図ります。 また、現在の入札参加資格者申請及び業者の格付けについて検証し、必要に応じ改めるよう努めます。 【 指 標 】 ・ 最低制限基礎価格の乗率を建設工事については90%、コンサル業務、役務については75%とすることを継続し、適正な落札率となるよう運用を図ります。 ・ 現在の入札参加資格者申請について、検証を行い、必要に応じて改めます。また、業者の格付けについても検証し、必要に応じて改めます。 ・ 当初発注予定工事公表分（61件）の入札実施目標 ・ 第1四半期 10件 ・ 第2四半期 47件 ・ 第3四半期 3件 ・ 第4四半期 0件 ・ 随意契約 1件 ・ 平成27年度より入札時に提出を義務づけた工事費内訳書について、引き続き制度の周知徹底に努めます。	組 織 目 標
2	本課が取り扱った入札契約件数は、建設工事167件、建設工事関連コンサルの入札45件、物品・役務等63件で、平均落札率は、建設工事では91.97%でほぼ昨年と同等の落札率でした。また、コンサル業務の平均落札率は86.74%でした。物品・役務の平均落札率については83.33%でした。	実 績 （ 成 果 ）
3	○ 落札率はほぼ昨年と同等であり、適正に推移しているものと考えます。 建設工事の入札における工事費内訳書の提出により見積能力のないような不良・不適格業者の参入を排除し、併せて談合等の不正行為やダンピング受注の防止を図りました。 建設業者等の信用及び技術力等を重視するとともに公正自由な競争を図ることができました。	評 価
4	入札契約制度を常に検証し、公正性・公平性・客観性を追求し、制度の構築に努めます。	今 後 の 展 開

全体	5
個別	02-01

令和元年度 [しまづくり推進部] 目標の成果

課名	政策企画課
----	-------

区分	項目	第2次対馬市総合計画の進捗管理の実施
1	組織目標	<p>【内容】</p> <p>平成28年度から開始した第2次対馬市総合計画を推進するため、外部委員で組織する総合計画審議会において、各施策の進捗状況や目標の達成状況、事業内容について検証し、計画の見直しに向けて取り組みます。</p> <p>【指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●施策の進捗状況・目標の達成状況の把握、事業内容の検証 ⇒総合計画審議会の開催1回
2		<p>実績（成果）</p> <ul style="list-style-type: none"> ●平成29年度、30年度の2か年に係る事業実績の取りまとめは行ったものの新型コロナウイルス感染症の予防措置により、令和2年3月に予定していた「総合計画等審議会」での検証作業は未実施です。
3	評価	<p>△</p> <ul style="list-style-type: none"> ●総合計画の各分野における主要施策の実績については、2か年分を調査、把握できたものの、その結果を検証する審議会を開催できませんでした。 なお、未開催の理由は、不可抗力によるものといえます。
4		<p>今後の展開</p> <p>コロナ感染症の終息状況をみながら令和2年度の早い時期に令和元年度の事業実績も含め、総合計画等審議会にて実績状況の確認、検証等を行います。 また、上記の状況を踏まえ、第2次対馬市総合計画の後期計画を令和2年度中に策定します。</p>

全体	6
個別	02-02

令和元年度 [しまづくり推進部] 目標の成果

課名	政策企画課
----	-------

区分	項目	第1期対馬市まち・ひと・しごと創生総合戦略の効果検証及び第2期戦略の策定
1	組織目標	<p>【内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●「第1期対馬市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の5年間の実績に基づき各分野の達成度等の効果検証を行います。 ●上記の結果を基に未達成分野における新規施策、事業等を検討し、人口減少抑制のための令和2年度から5か年間の「第2期対馬市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定します。 <p>【指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●第1期総合戦略に掲げる施策の実施状況、各重点戦略に掲げるKPIの達成状況の把握と検証⇒総合戦略推進会議の開催1回 ●第2期総合戦略策定⇒総合戦略推進会議の開催3回 ●KPI達成のための地方創生推進交付金の新規申請件数3件
2		<p>実績（成果）</p> <ul style="list-style-type: none"> ●第1期総合戦略に掲げる施策の実施状況、各重点戦略に掲げるKPIの達成状況の把握と検証のため総合戦略推進会議を1回開催するとともに、市議会議員全員協議会にて説明のうえ、意見を聴取しました。 ●「総合戦略推進会議」を3回、庁内関係部長で組織する「対馬市人口減少対策本部会議」を1回開催するとともに、市議会議員全員協議会での説明、意見聴取、パブリック・コメントを実施し、第2期対馬市まち・ひと・しごと創生総合戦略を策定しました。 ●KPI達成のため、地方創生推進交付金を2件新規申請しました。
3	評価	<p>○</p> <ul style="list-style-type: none"> ●第1期対馬市まち・ひと・しごと創生総合戦略の4年間分の評価・検証を行うとともに、第2期対馬市まち・ひと・しごと創生総合戦略については、必要な手続きを行い、策定しました。 ●地方創生推進交付金の新規申請については、目標3件に対し、2事業の複合プロジェクトによる2件の申請に留まりました。
4		<p>今後の展開</p> <ul style="list-style-type: none"> ●第1期対馬市まち・ひと・しごと創生総合戦略の最終年度における検証及び第2期対馬市まち・ひと・しごと創生総合戦略の初年度における主要施策の目標項目及び数値の設定を行います。

全体	7
個別	02-03

令和元年度 [しまづくり推進部] 目標の成果

課名	政策企画課
----	-------

区分	項目	国際航路の国内旅客混乗便の利用促進
1	【内容】	<p>釜山と福岡間を結ぶ国際航路へ国内旅客を相乗りさせる混乗便は、対馬北部市民の生活利便性の向上と福祉の充実を目的に運航を開始し、対馬北部からの交通手段として大きな役割を果たしています。</p> <p>しかし、平均乗船率は当初の目標に達していないことから、定期航路として運航ができず、このままの乗船率が続くと存続が難しくなります。</p> <p>そのため、本航路の利用促進と対馬北部への国内旅客の誘客を目的として、福岡市を中心としたテレビ、ラジオやデジタルサイネージを活用して周知を行います。</p>
組織目標	【指標】	<ul style="list-style-type: none"> ・九州郵船（株）、JR九州高速船（株）、対馬市の3者でその他利用促進について協議を実施 ・九州運輸局との協議及び相談 ・島外国内旅客へ向けた周知 ・利用客が多く見込まれる期間前に、島外旅客に向けて周知を行います。 ・平均乗船率を上げます。 ・定期ダイヤで運航します。
2	実績（成果）	<ul style="list-style-type: none"> ●九州郵船（株）、JR九州高速船（株）、対馬市で3者協議を定期的実施し、ダイヤ編成等について3社合意のもと進めました。 ●上記にあわせ、必要に応じ、九州運輸局との協議及び相談を行いました。 ●島外国内客向け周知として対馬市PR動画の作成及びTV番組放映、地下鉄吊り革広告、博多駅デジタルサイネージでのPRを行い、周知を図りました。 ●平均乗船率は、平成30年度の13.3%から21.1%と大幅に改善されました。 ●新型コロナウイルス感染症により、緊急事態宣言後は運休となりましたが、それまでの間は、定期ダイヤにて運航しました。
3	評価	<p style="text-align: center;">◎</p> <p>新型コロナウイルス感染症の影響により、緊急事態宣言後は運休となりましたが、それまでの間においては、3社協議の定期的な実施をはじめ、島外国内客への各種PRの実施により、平均乗船者数は、大幅に改善されました。</p>
4	今後の展開	<p>引き続き、北部島民の利便性向上のため、運航の継続が図られるよう、関係機関との協議、調整を密に行っていきます。</p>

全体	8
個別	02-04

令和元年度 [しまづくり推進部] 目標の成果

課名	しまの力創生課
----	---------

区分	項目	様々な機関や業種団体と連携した産業の振興
1	【内容】 事業者団体、金融機関、大学などの研究機関、行政、その他産業振興に携わる団体等で構成する「対馬市創業支援会議」において、創業を希望する方を多方面から総合的に支援し、産業振興と雇用の増加により地域の活性化を目指します。 また、有人国境離島法に基づく雇用機会拡充支援事業補助金を交付し、雇用を伴う創業や事業拡大を行う民間事業者の支援を行います。	
組織目標	【指標】 ・ワンストップ相談窓口等での相談受付：40件 ・創業の目標件数：8件 ・被雇用者の増加目標人数：24名 ※創業等支援事業と雇用機会拡充支援事業の合計での目標数値	
2		<ul style="list-style-type: none"> ・ワンストップ相談窓口等での相談受付：74件 ・創業の件数：1件 ・被雇用者の増加人数：28名
実績（成果）		
3		創業の件数は目標に届かなかったが、相談件数や最も重要な被雇用者数の増加件数が目標を上回っており、十分な成果が上がりました。
評価	○	
4		ワンストップ相談窓口のさらなる利用をお願いし、創業や事業の拡大希望者を掘り起こします。 また、創業や事業の拡大のみならず、労働人口が減少し、労働力の確保が難しくなる中で、人材の確保がしやすいように、人材育成の支援を図っていきます。
今後の展開		

全体	9
個別	02-05

令和元年度 [しまづくり推進部] 目標の成果

課名	しまの力創生課
----	---------

区分	項目	大学と地域との連携推進（域学連携）
1 組織目標	【内容】	大学が身近に無い対馬において、大学が身近に感じられるような環境を整え、都市部学生の若い力や教員の知識・ノウハウ等によって島づくりの後押しをしていただくとともに、島づくりを担う移住定住人財の誘引、対馬ファン・リピーターの確保を行うことで、対馬の新たな価値と産業を創造します。
	【指標】	<ul style="list-style-type: none"> ・学生の受入数 500名 ・大学教員（研究者）の受入数 100名 ・リピート学生の受入数 200名 ・学生卒業後の移住定住数 年1～2名 ・せんだんご速醸実証の成功 (酵素・麹カビ両方の方法で2週間程度でせんだんごづくり完了)
2 実績（成果）		<ul style="list-style-type: none"> ・学生の受入数 512名 ・大学教員（研究者）の受入数 93名 ・リピート学生の受入数 115名 ・学生卒業後の移住定住数 2名 ・せんだんご速醸実証については、うまく速醸することができず、温度等の環境設定上、いくつかの課題が残りました。
3 評価	○	1月以降、新型コロナウイルスの影響を受け、予定されていた学生・教員の来島がキャンセルとなり、一部目標を達成することができませんでした。しかしながら、一定数の来島・再来島が得られ、過去来島した学生の中から移住した者もあり（令和2年度着任の島おこし協働隊員）、関係人口の形成・維持において成果があったものと評価します。
4 今後の展開		令和元年度は域学連携地域づくり推進事業の最終年度でした。今後は、「域学連携」で培った大学ネットワークを活用し、Society5.0や人口急減社会、気候変動といった急激な社会変化に順応しながら、地方創生、SDGs等に向けたイノベーションやリーダーシップ力を発揮できる「実践型人財」の育成に取り組むたいと考えております。

全体	10
個別	02-06

令和元年度 [しまづくり推進部] 目標の成果

課名	しまの力創生課
----	---------

区分	項目	地域マネージャー活動活性化事業
1	組織目標	<p>【内容】</p> <p>「地域自らが考える将来ビジョン」である『地域づくり計画』は181行政区中89行政区分30計画、『行動宣言』は99行政区分55宣言の策定に留まっています。これは、地域課題の多様化・複雑化などが主な要因と考えられます。</p> <p>29年度に担当校区を再配置するなど地域と地域マネージャーが「つながる」しかけ作りを行い、30年度には「話し合いの大切さ」を認識するための研修会を開催しました。今後も引き続き「つなげるためにつながる」をテーマに制度活性化に向けて情報提供や情報共有を図ります。</p> <p>また、わがまち元気創出支援事業を含めた地域支援策の洗い出しを行い、地域の現状に即した新たな地域支援策を検討します。</p> <p>【指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定期的に校区会議を開催し、情報提供及び情報共有に努めます。 ・地域マネージャーと地域との「つながり状況」を定期的に把握し必要に応じてサポートを行います。 ・対馬市市民協働（共働）推進本部会議を開催し、全庁的な活性化に向けた気風をつくります。 ・「地域づくり計画」「行動宣言」の新規策定 10地区
2		<ul style="list-style-type: none"> ・「地域づくり計画」の新規策定 0地区 ・「行動宣言」の新規策定 0地区 ・地域マネージャー活動状況 <ul style="list-style-type: none"> のべ活動時間数（時間外勤務） 125.5時間 のべ従事職員数 50人 のべ従事行政区数 33地区
3	評価	<p>△</p> <p>地域づくり計画及び行動宣言の新規策定については、目標値を達成することはできませんでしたが、校区会議やリーダーミーティングなどを開催し、情報提供及び情報共有を行い、地域マネージャー活動の活性化を図りました。</p>
4		<p>職員数の減少や業務量の増加により、地域マネージャー業務を行う時間の確保が困難になっていることに加え、地域担い手の減少や、未だ地区との関係が構築できていない地区もある状況です。</p> <p>今後も引き続き、地域マネージャーの基本ミッションである『「住民同士の顔見知りの関係」＝「つながり」づくりを校区（行政区）担当の地域マネージャーがお手伝い』をもとに情報提供及び情報共有を図りつつ、地域マネージャーと地域とのサポートに努めます。</p>
今後の展開		

全体	11
個別	02-07

令和元年度 [しまづくり推進部] 目標の成果

課名	しまの力創生課
----	---------

区分	項目	U・Iターン推進事業
1	組織目標	<p>【内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆しまぐらし応援室拡充：中対馬振興部及び上対馬振興部に業務として人員を配置、窓口での対応の強化とともに、地域情報のさらなる把握を目指します。 ◆移住・定住推進事業補助金の拡充：ふるさと就職奨励補助金、結婚移住奨励補助金、しま暮らし支援補助金、空き家改修費等補助金に加え奨学金返還支援補助金を新設し、移住・定住の支援を行います。 ◆移住者用住宅の拡充：①年度内に新たに4世帯分の定住支援住宅の運用を開始します。②空き家バンク登録への啓発を強化し、移住者用住宅を確保します。 ◆対馬市合同企業就職説明会（仮称）開催及び移住相談会への参加：①対馬市内にて高卒予定者と市内企業をつなげる相談会を実施します。②対馬への移住実績の半数を占める福岡市にて、移住希望者と企業をつなげる相談会を実施します。③大都市で開催される移住相談会へ参加し、情報発信を行います。 <p>【指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆各種相談等対応者数 300件 ◆空き家バンク登録 10件 ◆移住者数 100名
2		実績（成果）
3	評価	<p style="text-align: center;">◎</p> <p style="text-align: center;">補助金制度や移住者用住宅を拡充したこと等に伴い、移住者等からの相談各種相談等対応者数、移住者実績ともに目標値を大きく上回りました。</p>
4		<p>対馬市が望む移住者ターゲット「子育て世帯」に合わせた情報発信や環境整備を引き続き実施します。</p> <p>また、今後は移住後のフォローを充実させ、移住から定住につながるような仕組みの構築を図ります。</p>
	今後の展開	

全体	12
個別	03-01

令和元年度〔観光交流商工部〕目標の成果

課名	観光商工課
----	-------

区分	項目	観光客の受入態勢の整備
1	組織目標	<p>【内容】</p> <p>「国境サイクリングIN対馬」を開催し、国内外のサイクリストの方々に、対馬の豊かな自然や独自の風土を体感していただくことで、新たな観光資源の発掘と人口交流の創造を図ります。</p> <p>また、利用者の利便性向上を図るため、観光施設等のトイレの洋式化を実施します。</p> <p>【指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆国境サイクリングIN対馬 参加者120名 ◆トイレの洋式化 5箇所
2		<p>◆国境サイクリングIN対馬 令和元年10月19日開催し、111名のエントリーがありました。</p> <p>◆トイレの洋式化 島内6施設で11カ所の洋式化を図りました。</p>
3	評価	<p>△</p> <p>トイレの洋式化は目標を上回る設置が行えたものの、サイクリングイベントは、SNSによる情報発信が十分でなかったため目標を達成することが出来ませんでした。</p>
4		<p>トイレの洋式化は、必要に応じた対応を実施します。また、サイクリングイベントは、情報発信のみの取組みから、SNS広告を活用した新たな手法で新規参加者及びリピーターの獲得を目指します。</p>
	今後の展開	

全体	13
個別	03-02

令和元年度〔観光交流商工部〕目標の成果

課名	観光商工課
----	-------

区分	項目	地場産品の更なる消費拡大への取組み
1	組織目標	<p>【内容】</p> <p>観光物産展等の開催やイベントへの出展、福岡事務所や対馬観光物産協会と連携し、対馬の認知度向上、特産品の販路拡大及び対馬産品取扱店舗拡大に取り組みます。</p> <p>情報発信の拠点として「よりあい処つしま」を活用し、対馬特産品のPR、集客・誘客、販路拡大を図ります。</p> <p>「海山交流」を行っている地域と、物産・人・情報交流事業に取り組みます。</p> <p>【指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・物産展売上額 11,000千円 ・対馬食材を使用したフェアを開催 5会場
2		<p>実績（成果）</p> <p>福岡県内、大阪などで物産展を行い、売上合計は9,000千円でした。</p> <p>「よりあい処つしま」として、RKBラジオまつりに出展し、あなご弁当をメインに特産品の販売を行い好評を得ました。</p> <p>鳥栖市のイベントとコラボして、対馬食材フェアや物産展を実施し販路拡大を図りました。また、熊本県山江村、岐阜県中津川市と物、人の交流を実施することができました。</p>
3	評価	<p>△</p> <p>物産展売上額は目標額に達しなかったものの、各会場で販売と併せ、特産品のPRを行うことで地名度の向上に繋がりました。また、海山交流を行うことで、魅力の再認識が行うことができ、今後の特産品の販売におけるネットワークが構築されました。</p>
4		<p>今後の展開</p> <p>都市圏で物産展等を開催（出展）することで対馬の特産品の認知度向上を図るとともに販路拡大を行います。</p> <p>よりあい処つしまの移転を転機として、取扱商品の充実と新たな販路拡大に取り組みます。</p>

全体	14
個別	03-03

令和元年度〔観光交流商工部〕目標の成果

課名	観光商工課
----	-------

区分	項目	地場産品の更なる消費拡大への取組み
1 組織目標	【内容】 国内の景気動向は緩やかな上昇傾向から悪化に転じ、10月からは消費税の増税、さらに対馬において前例がないような人手不足に陥っています。国の対抗措置同様、対馬市もキャッシュレス決済の推進による消費拡大や生産性向上による増益策を図り、市内産業の振興を図ります。 誘致企業のホテルオープンに向けての雇用・運営についてのフォローアップを行い雇用の安定化と関連産業の振興を図ります。また雇用創出型の企業誘致では市内の人手不足を加速・流動化を超えた不安定化が進むため、対馬市の課題解決を図る事業者が、人員を含めた事業所の誘致が進むよう検討します。 【指標】 ・キャッシュレス推進事業補助金 採択件数 5件 ・対馬市商工会との市内経済振興協議 年10回 ・課題解決型企业誘致の推進策定 1件	
2 実績(成果)		キャッシュレス推進事業補助金 採択件数 0件(活用需要がなかったため) 対馬市商工会との市内経済振興協議 年15回 課題解決型企业誘致の推進策定 0件
3 評価	△	国等のキャッシュレス補助制度もあり市の事業の活用までには至りませんでした。 商工会と商工業の活性化等については、経済振興の協議ができました。
4 今後の展開		引き続き商工振興については、対馬市商工会との協議の中で進め、ソフト事業の支援など研究を行い、効果的な振興策を検討していきたいと考えています。

全体	15
個別	03-04

令和元年度〔観光交流商工部〕目標の成果

課名	文化交流・自然共生課
----	------------

区分	項目	国際交流イベントや朝鮮通信使行列の世界記憶遺産登録を活用した交流人口拡大
1	【内容】	<ul style="list-style-type: none"> ①対馬厳原港まつりにおける朝鮮通信使行列の再現、対馬アートファンタジアの開催支援を行い交流人口の拡大を行います。 ②日本遺産史跡解説のための看板を設置します。 ③旅行社（者）へのマナー向上、ルール遵守を徹底させ、市民の理解の促進を図ります。 ④朝鮮通信使を活用したまちづくり事業（施設整備等）を実施します。
組織目標	【指標】	<ul style="list-style-type: none"> ・朝鮮通信使行列再現への参加者数 300人 ・日本遺産PR用看板等設置 4か所 ・添乗員、ガイド研修実施 25人 ・朝鮮通信使によるまちづくり事業 （通信使キャラクターグッズ作成、案内板設置、歴史マンガ、島内PR事業、トラックラッピング） ・朝鮮通信使行列に係る資料館建設事業の着手
2	実績（成果）	<ul style="list-style-type: none"> ・朝鮮通信使行列再現への参加者数：257人 ・日本遺産解説のためのPR掲示物の制作：4基 ・添乗員、ガイド研修実施 日韓情勢悪化により未実施 ・朝鮮通信使によるまちづくり事業 （普及啓発用付箋紙作製(1,500冊)、タンブラー作製(120個)、歴史マンガ作製(最後の朝鮮通信使-易地聘礼-)、歴史講座年6回延べ200名、案内板設置(5基) ※佐須奈地区における朝鮮通信使イベントについては、COVID-19の感染拡大防止のため見送りとしました。 ・ユネスコ記憶遺産登録PR事業 輸送用トラックラッピング：2台 ・朝鮮通信使行列に係る資料館建設事業の設計業務完了
3	評価	<p style="text-align: center;">△</p> <p>増加の一途をたどっていた韓国人観光客数が、本年度については日韓情勢の悪化による非常に大幅な観光客の減少（8月以降の韓国人観光客数8割以上の減）及び、年始以降世界に拡散の兆しを見せていたCOVID-19の影響による観光客の壊滅的減少が起きました。（比田勝～釜山間航路も3月より全面運休）</p> <p>日韓情勢の悪化の影響を受けて8月の港まつり時に予定していた朝鮮通信使船復元船の対馬來航の中止、韓国側からの来賓の減少がみられました。また、COVID-19の影響により佐須奈での朝鮮通信使PRイベントも中止となりました。</p> <p>看板設置4基が令和2年度に繰り越しとなりました。</p> <p>その他の事業は概ね予定どおり実施しました。</p>
4	今後の展開	<p>世界記憶遺産登録を活かしたまちづくり、「朝鮮通信使と言えば、対馬」のキャッチフレーズを基に朝鮮通信使によるまちづくり事業を推進いたします。</p>

全体	16
個別	03-05

令和元年度〔観光交流商工部〕目標の成果

課名	文化交流・自然共生課
----	------------

区分	項目	ツシマヤマネコ・生物多様性保全活動の推進
1	【内容】	ツシマヤマネコ等希少種の保護・啓発活動を実施します。また、特定外来生物の市民参加型防除活動、調査を行います。
組織目標	【指標】	<ul style="list-style-type: none"> ・ワイヤーメッシュによるツシマウラボシシジミ保全区域 1か所 ・全国の動物園等における対馬の自然普及啓発事業 2か所 ・市民参加型ツマアカスズメバチ捕獲罠設置 2,000か所 ・ツマアカスズメバチ化学的防除手法の試行 5地区
2	【実績（成果）】	<p>全国のツシマヤマネコ飼育動物園等でツシマヤマネコ普及啓発イベントを実施しました。また、ツシマウラボシシジミの保全区域としてワイヤーメッシュ柵で囲った保護区を設置しました。</p> <p>外来種対策では、ツマアカスズメバチ防除活動への参加を市民に呼びかけ、島内で広くトラップを設置するとともに、化学的防除手法を試行しました。</p> <p>【指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワイヤーメッシュによるツシマウラボシシジミ保全区域 1か所 ・全国の動物園等における対馬の自然普及啓発事業 2か所開催 ・市民参加型ツマアカスズメバチ捕獲罠設置 2,300か所 ・ツマアカスズメバチ化学的防除手法の試行 17か所
3	○	<p>ツシマヤマネコ普及啓発イベントを実施したことで、全国に広くツシマヤマネコと対馬の自然の魅力をPRし、保護活動の輪を広げることができました。また、ツシマウラボシシジミ保護区を設置し食草・吸蜜植物等を植栽することで、好適な生息環境を整備することができました。</p> <p>特定外来生物ツマアカスズメバチの女王蜂を捕獲・駆除することで、夏以降に発生する巣を減らすことができました。</p>
4	今後の展開	<p>引き続きツシマヤマネコ啓発イベントを実施し、対馬の自然の魅力をPRすることで対馬ファンを増やし、保護活動の輪を広げていきます。</p> <p>また、外来種対策では環境省や研究機関と連携協力して、新たな防除手法の確立を目指し、効果的かつ順応的な防除を推進します。</p>

全体	17
個別	03-06

令和元年度〔観光交流商工部〕目標の成果

課名	博物館建設推進課
----	----------

区分	項目	対馬固有の遺跡や文化財の保存・活用
1	組織目標	<p>【内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 対馬博物館（仮称）施設の整備推進を行います。 2 対馬博物館（仮称）の開館を見据え、博物館や対馬の文化財の魅力を市内外に発信します。 3 博物館開館準備のため、博物館に収蔵する資料の選定と整理を実施します。 <p>【指標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 <ol style="list-style-type: none"> ① 既存施設の解体 ② 交流棟ゾーン建設工事の実施 ③ 博物館施設駐車場の整備 2 <ol style="list-style-type: none"> ① 対馬市ホームページやSNSを利用した情報の発信 ② 博物館に関するシンポジウム及び講演会の開催 各1回/年 3 <ol style="list-style-type: none"> ① 博物館収蔵資料の選定及び整理 ② 博物館資料収蔵計画の策定
2		<p>実績（成果）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 対馬博物館施設の整備を推進し、博物館棟ゾーン建設工事及び展示工事等を実施しました。 <ol style="list-style-type: none"> ① 既存施設の解体：未着手 ② 交流棟ゾーン建設工事の実施：令和元年1月に契約締結 ③ 博物館施設駐車場の整備：令和2年2月に契約締結及び現在工事中 2 対馬博物館の開館に向けて、建設工事や博物館の取り組みについて情報を発信しました。 <ol style="list-style-type: none"> ① facebookを利用した情報の発信：6回/年 ② 博物館に関するシンポジウム及びワークショップの開催：2回/年 シンポジウム：来場者120人 ワークショップ：来場者99人 計219人 3 <ol style="list-style-type: none"> ① 対馬島内の資料館に置かれている資料の現状を調査しました。 ② 調査内容を元に博物館資料収蔵計画の策定の準備を進めています。
3	評価	<p>△</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 博物館棟ゾーン建設工事及び展示工事が作業員確保に時間を要したため工期延長となり、それに伴い交流棟ゾーンの建設工事が遅れています。令和2年度内には交流棟を含めた施設全体が完成する見込みです。 2 イベントはシンポジウムとワークショップを開催することで、対馬市の大人から子どもまでが対馬の歴史や文化に対する関心と理解を深めることのできるイベントづくりを心掛けました。また、facebookを活用することで、市内外の多くの方々に博物館の活動や成果を伝えることができました。 3 資料の調査をもとに輸送の準備計画を進めている他、歴史民俗資料館から市に譲渡された資料の収蔵庫への移転作業を完了させました。博物館資料収蔵計画の策定については、条例の制定と合わせて進めています。
4		<p>今後の展開</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 博物館完成に向け、引き続き建設工事を進めていきます。 ○ 博物館開館を見据え、活動内容を具体的に決め、展示準備を進めていきます。 ○ 博物館開館準備のため、資料収蔵計画を策定して資料整理を実施します。 ○ 博物館周知のため、広報活動に一層努めます。

全体	18
個別	04-01

令和元年度〔市民生活部〕目標の成果

課 名	税 務 課
-----	-------

区分	項 目	滞納処分の強化																											
1 組織 目標	【 内 容 】	<ul style="list-style-type: none"> ・ 厳正な滞納処分を実施するため、積極的に財産調査、預貯金調査、生命保険等の調査を行い、差押えの実施および滞納処分の停止等滞納整理の充実を図ります。 ・ 長期差押不動産の換価価値を精査したうえで、換価が見込まれるものは公売し、換価困難なものについては他の滞納整理方法を検討します。 ・ 軽自動車税については徴収率が他の税目と比較して低迷しているため、滞納処分の強化に加え、特に現年分の徴収を強化します。 																											
	【 指 標 】	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 10%;">市税</td> <td style="width: 20%;">現年分徴収率</td> <td style="width: 15%;">98.50 %</td> <td style="width: 20%;">(前年度実績)</td> <td style="width: 35%;">98.09 %</td> </tr> <tr> <td></td> <td>滞納分徴収率</td> <td>15.00 %</td> <td>(前年度実績)</td> <td>13.34 %</td> </tr> <tr> <td>国保税</td> <td>現年分徴収率</td> <td>94.00 %</td> <td>(前年度実績)</td> <td>93.79 %</td> </tr> <tr> <td></td> <td>滞納分徴収率</td> <td>13.00 %</td> <td>(前年度実績)</td> <td>11.31 %</td> </tr> </table>				市税	現年分徴収率	98.50 %	(前年度実績)	98.09 %		滞納分徴収率	15.00 %	(前年度実績)	13.34 %	国保税	現年分徴収率	94.00 %	(前年度実績)	93.79 %		滞納分徴収率	13.00 %	(前年度実績)	11.31 %				
市税	現年分徴収率	98.50 %	(前年度実績)	98.09 %																									
	滞納分徴収率	15.00 %	(前年度実績)	13.34 %																									
国保税	現年分徴収率	94.00 %	(前年度実績)	93.79 %																									
	滞納分徴収率	13.00 %	(前年度実績)	11.31 %																									
2 実績 (成果)	市税	現年分徴収率	97.82 %	国保税	現年分徴収率	93.01 %																							
		滞納分徴収率	12.06 %		滞納分徴収率	10.88 %																							
	《参考》	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 40%;">差押実績</th> <th style="width: 15%;">(平成31年度)</th> <th style="width: 15%;">(平成30年度)</th> <th style="width: 30%;">増減</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・ 一般(預金・生命保険・給与等)</td> <td style="text-align: center;">56 件</td> <td style="text-align: center;">96 件</td> <td style="text-align: center;">▲ 40 件</td> </tr> <tr> <td>・ 不動産(搜索を含む)</td> <td style="text-align: center;">2 件</td> <td style="text-align: center;">2 件</td> <td style="text-align: center;">0 件</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">計</td> <td style="text-align: center;">58 件</td> <td style="text-align: center;">98 件</td> <td style="text-align: center;">▲ 40 件</td> </tr> <tr> <td>滞納処分の停止実績</td> <td style="text-align: center;">260 件</td> <td style="text-align: center;">366 件</td> <td style="text-align: center;">▲ 106 件</td> </tr> <tr> <td>不動産公売実績</td> <td style="text-align: center;">0件中 0 件</td> <td style="text-align: center;">7件中 5 件</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				差押実績	(平成31年度)	(平成30年度)	増減	・ 一般(預金・生命保険・給与等)	56 件	96 件	▲ 40 件	・ 不動産(搜索を含む)	2 件	2 件	0 件	計	58 件	98 件	▲ 40 件	滞納処分の停止実績	260 件	366 件	▲ 106 件	不動産公売実績	0件中 0 件	7件中 5 件	
差押実績	(平成31年度)	(平成30年度)	増減																										
・ 一般(預金・生命保険・給与等)	56 件	96 件	▲ 40 件																										
・ 不動産(搜索を含む)	2 件	2 件	0 件																										
計	58 件	98 件	▲ 40 件																										
滞納処分の停止実績	260 件	366 件	▲ 106 件																										
不動産公売実績	0件中 0 件	7件中 5 件																											
3 評価	△	<ul style="list-style-type: none"> ・ 徴収率は現年分▲0.33%、滞納分▲0.81%、現年滞納合計で1.24%昨年を上回りました。目標に掲げていた軽自動車税は前年度徴収率を上回りましたが国民健康保険税の滞納分については目標徴収率に届いていないため、今後も努力が必要です。また、県内他市町と比較した場合まだまだ低い状況であるため、今後も滞納処分を強化していくことが重要です。 ・ 預貯金・生命保険等の差押え件数や公売実績などは前年度を下回っていますが、不動産の差押えについては、公売による換価が見込める物件が殆どなく前年度を下回る結果となりました。 ・ C A T Vや広報等を利用して税務の諸手続きに関する注意喚起を実施しました。 ・ 公売に相応しい不動産がなかったため、不動産公売は実施しませんでした。 																											
		<ul style="list-style-type: none"> ・ 財産等の調査、差押え及び滞納整理の強化については今後も継続が必要です。 ・ 長期差押不動産の精査については、一件ごとに状況が異なるため時間を要するので、複数年にわたり処理を進めます。 																											
4 今後の 展開																													

全体	19
個別	04-02

令和元年度〔市民生活部〕目標の成果

課名	環境政策課
----	-------

区分	項目	各種団体が連携したリサイクル、ゼロ・エミッションの推進
1	【内容】	<ul style="list-style-type: none"> ・生ごみ等資源の再利用システム事業に取り組みます。 ・生ごみ堆肥化推進等によるごみ量の削減を行います。 ・生ごみ堆肥化協力世帯の募集及び事業内容の周知を行います。
組織目標	【指標】	<ul style="list-style-type: none"> ・ごみの減量化目標 600 t 以上 ・ごみの資源化目標 60 t 以上 ・生ごみ等資源再利用システム事業の実施 (目標回収世帯数：3,000世帯)
2	実績(成果)	<ul style="list-style-type: none"> ・ごみの減量化 358 t ・ごみの資源化 37 t ・生ごみ等資源再利用システム事業の実施 (回収世帯数 2,010世帯) ・全世帯へのアンケート調査を実施 13,582世帯
3	評価	<p>△</p> <p>令和元年度も生ごみ等資源再利用システム事業に取り組み、2,010世帯、週2回の回収を実施しました。また、生ごみ回収量も平成30年度(333 t)より増加し、358 t となっており、ごみ量の削減にも繋げることができました。</p> <p>しかしながら、目標としていた3,000世帯、生ごみ回収量600 tには届きませんでした。</p> <p>また、全世帯へのアンケート調査を実施し、各世帯の取組状況を聞くことができ、今後、事業展開していく上で参考になりました。</p>
4	今後の展開	<p>引き続き、生ごみ等の分別収集及び堆肥化に取り組み、将来的には市内全域での回収に向けて収集体制の構築を図るとともに、回収した生ごみ等については、「生ごみ等堆肥化施設」において堆肥化に取り組み、堆肥の品質及び供給体制の確立を図っていきます。</p> <p>また、市内全地区へ協力世帯の募集を行うとともに、広報やCATV等を活用し、事業説明と周知を行います。更に回収量の増加を図るため、市内の事業所に対して本事業への協力を依頼します。</p>

全体	20
個別	04-03

令和元年度〔市民生活部〕目標の成果

課名	環境政策課
----	-------

区分	項目	漂流・漂着ごみの回収と発生抑制対策の推進
1	組織目標	<p>【内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海岸漂着物処理推進法及び長崎県海岸漂着物等地域対策推進事業補助金を活用し、漂着物被害が著しい海岸を中心に海岸漂着物の円滑な回収処理を進めます。 ・海岸漂着物等の発生抑制のための関係者間の連携・交流等を目的とした環境学習を広く開催します。（日韓市民ビーチクリーンアップ事業等） <p>【指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前年度の回収・処理を参考に、漂着ごみの計画的な回収を実施します。（回収・処理予定数量：トン袋で10,000袋） ・日韓市民ビーチクリーンアップ事業・日韓交流海ごみワークショップIN釜山及び漂着ごみ回収イベントを実施します。
2	実績（成果）	<ul style="list-style-type: none"> ・令和元年度の海岸漂着ごみについては、長崎県海岸漂着物等地域対策推進事業補助金を活用しながら、トン袋で7,908袋の漂着ごみを回収しました。 ・第7回日韓海岸清掃フェスタIN対馬事業の実施（令和元年6月9日に対馬市と市民活動団体の共同主催で実施しました。） ・2019日韓市民ビーチクリーンアップ事業の実施（令和元年9月29日に韓国釜山外大の学生、市民等326名が参加し、トン袋で206袋の漂着ごみを回収しました。） ・第2回日韓交流海ごみワークショップIN釜山を実施（令和2年1月12日に島内3高校の生徒と釜山市へ出向き、海岸視察、釜山の大学生・高校生・NPO等とワークショップを開催しました。）
3	評価	<p>○</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和元年度も長崎県海岸漂着物等地域対策推進事業補助金を活用し、大規模な海岸漂着物の回収を行い、海岸環境や景観に対し、一定の成果が得られました。また、韓国釜山外大生との海岸漂着物回収イベント「日韓市民ビーチクリーンアップ事業」を開催し、海岸漂着物の発生抑制対策が図られました。 ・昨年度から引き続き開催した「日韓交流海ごみワークショップIN釜山」では韓国の現状を把握でき、有意義な意見交換や交流ができました。高校生も漂着ごみについて、色々と学び、今後の発生抑制に繋がるものと思います。
4	今後の展開	<p>漂着ごみ対策は、大規模な回収等により、一定の成果はあがっているものの、現状は漂着、回収の繰り返しであり、今後も継続的な漂着ごみの回収に取り組んでいかなければなりません。回収、処理経費の対応のため、引き続き、国・県による財政支援を要望していきます。</p> <p>また、漂着ごみ対策の根幹である発生抑制対策に向けて取り組む必要があり、「日韓市民ビーチクリーンアップ事業」など、国際交流事業等を通じて今後も継続的に普及、啓発に取り組んでいきます。</p>

全体	21
個別	05-01

令和元年度〔福祉保険部〕目標の成果

課名	福祉課
----	-----

区分	項目	高齢者の生きがいの創出
1	【内容】 ・シルバー人材センターの拡充 高齢者の豊かな経験・知識や技能を活かせる臨時的・短期的な就業の場を提供することで「生きがい」の確保や福祉の増進を図り、高齢者の能力を大いに発揮できる活力ある地域社会づくりを目指して、会員の確保及び業務の拡大を推進します。 【指標】 ・会員数の更なる増加を目指すとともに活動範囲を市内全域に拡大します。 また、日常生活の困りごとの軽易な作業を実施する「ちょこっとサービス」を10月から開始します。	
組織目標		
2	・会員数及び年間就業延人日数 平成29年度 62人 2,641人日 平成30年度 127人 3,094人日 令和元年度 137人 3,409人日 ・上地区、中地区にも拠点を設置し、活動範囲を市内全域に設置しました。 ・「ちょこっとサービス」を12月1日から開始しました。	
実績（成果）		
3	△ ・ シルバー人材センターの拠点を上地区、中地区に設置し、活動範囲を市内全域に拡大するとともに会員数及び年間就業延人日数も前年度から増加しました。 ・ 高齢者及び障害者の日常生活の困りごとに対して、軽易な作業を実施する「ちょこっとサービス」は、10月から事業開始の予定でしたが、関係機関との調整のため12月1日からの事業開始になりました。	
評価		
4	シルバー人材センターの各拠点を中心として、更なる会員の拡大を図るとともに新たな業務の開拓等を行い、事業量の拡大につなげていきます。 また、将来的には、一般社団法人の設立を経て、公益社団法人への移行を目指します。	
今後の展開		

全体	22
個別	05-02

令和元年度〔福祉保険部〕目標の成果

課名	こども未来課
----	--------

区分	項目	入所保留（待機）児童の解消
1	【内容】	令和元年度に入所保留（待機）児童の発生は有りませんでした。保育所への需要は年々増加傾向にあり、年度途中での入所希望者も見込まれることから、保育室等の面積要件や慢性的な保育士不足に起因する入所保留（待機）児童の解消を図り、子育てしやすい環境を整備します。
組織目標	【指標】	・全ての入所保留（待機）児童の解消
2	実績（成果）	年度途中での入所希望が重なり、厳原町、美津島町管内において最大8人の入所保留（待機）児童が発生する結果となりました。
3	評価	△ 少子化が進行する中においても、共働き家庭の増加や子育て環境の変化等により、保育所への需要が大きく減少することはないと、また、一部施設への利用希望者が集中している状況であったことから、この様な状況に対し、保育士の配置、保育室の面積要件等による検討により、可能な限り入所に向けた対応に努めました。
4	今後の展開	慢性的な保育士不足の解消を図るため、新たな取組を検討し一人でも多くの保育士確保に努めます。また、近隣保育所の統合による認定こども園への移行や、併せて各保育所の現状及び地域情勢の把握により、今後の効率的な施設配置について検討を行い、入所保留（待機）児童の解消に向けた取組を進めます。

全体	23
個別	06-01

令和元年度〔健康づくり推進部〕目標の成果

課名	いきいき健康課
----	---------

区分	項目	特定健診の受診率向上
1	組織目標	<p>【内容】</p> <p>第2次健康つしま21計画を推進するために、第3期特定健診等実施計画に基づき、市民の健康への意識付けを行い、受診率の向上を図ることで健康寿命の延伸につなげます。</p> <p>【指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特定健診受診率40%を目指します。 ・受診勧奨に努めます。 ・特定保健指導の実施率50%を目指します。
2		<p>実績（成果）</p> <p>有線テレビ、市報等のメディアを活用した広報及び健診推進員による電話勧奨と臨戸訪問並びに健康つしま21推進員や食生活改善推進員等、地区組織などを活用して受診勧奨の活動を展開しました。また、消防団員を対象とした健診（中・北地区）を拡充して実施したり新たな試みを図ることで、3月末時点では42.9%となりました。</p>
3	評価	<p>目標としている40%を超え42.9%と過去最高の受診率を達成することができました。</p>
4		<p>今後の展開</p> <p>これまで以上に各地区や年代などの受診率の低い原因をさらに分析し、市民健診の受診勧奨を地域に密着した健康つしま21推進員や食生活改善推進員などによる受診勧奨を行います。また、CATVや広報などの情報発信ツールも大いに活用し受診率の向上を目指します。</p>

全体	24
個別	06-02

令和元年度〔健康づくり推進部〕目標の成果

課名	地域包括ケア推進課
----	-----------

区分	項目	認知症ケア向上研修事業の実施
1	組織目標	<p>【内容】</p> <p>認知症になっても、住み慣れた地域で生活を継続するためには、住民や家族、並びに施設や病院職員が、認知症に対する知識を学び、理解を深め、さらには、認知症になられた方への接し方・ケア技術を学ぶ必要があります。</p> <p>認知症になっても住み続けることが出来る島を目指し、住民や介護施設等の職員を対象に、認知症ケアを学ぶ機会を提供するために、認知症ケア向上研修事業に取り組めます。</p> <p>【指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広く市民を対象にした事業 認知症ケア技術向上講座を実施（11月） ・介護施設や病院等に勤務する職員を対象にした専門的事业 島外の専門的な認知症ケア向上研修に参加する方への費用助成をする認知症ケア向上研修事業を実施（5名）
2		実績（成果）
3	評価	<p>○</p> <p>市民と市内医療・介護従事者に認知症ケア向上研修を受講いただいたことで、認知症及び認知症ケアに対する知識の習得と理解を深めていただきました。また、市内では、介護技術等の専門的な研修機会が少なく、島内での研修会実施と島外研修への参加助成をすることで、介護人材育成につながるものと期待できます。</p>
4		今後の展開

全体	25
個別	07-01

令和元年度〔農 林 水 産 部〕目標の成果

課 名	農 林 ・ し い た け 課
-----	-----------------

区分	項 目	対馬しいたけ振興事業
1	組織目標	<p>【 内 容 】</p> <p>対馬しいたけの生産量は年々減少し、高温多雨あるいは寒波などの気象の影響による不作や生産者の高齢化や担い手不足が主な要因です。</p> <p>そこで、これまでと同様にしいたけ種駒補助は継続しつつ、高齢者及び新規参入者の作業負担軽減等を目的として、しいたけ原木供給体制の確立を図り、また、担い手不足解消のため新規参入者の技術支援を行います。</p> <p>【 指 標 】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○しいたけ生産推進 種駒補助 1,000万個 ○しいたけ原木の供給 7,000本 ○新規参入者向け研修会 3回
2		<p>実績（成果）</p> <p>種駒補助と研修会については目標を下回ったものの、原木供給については目標を上回ることができました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○しいたけ生産推進 種駒補助 574万個 ○しいたけ原木の供給 9,300本 ○新規参入者向け研修会 1回
3	評価	<p>△</p> <p>生産者の高齢化や後継者不足による生産者数の減と大型生産団地が大きく植菌量を減らしたことから種駒補助の個数が目標を大きく下回りましたが、しいたけ原木については対馬しいたけ原木供給協議会を通じて目標を上回るしいたけ原木を供給することができました。</p> <p>研修会については、対馬農林業振興協議会を通じて1度開催することができましたが、講師との日程調整等がうまくいかず複数回開催することができませんでした。</p>
4		<p>今後の展開</p> <p>引き続き計画的に対馬しいたけの振興を図っていくこととし、しいたけ原木供給体制を維持しながら植菌数の増を促すことと併せて新規参入者に向けた研修会等を実施していくことによってしいたけ生産量の増に繋げていきます。</p>

全体	26
個別	07-02

令和元年度〔農 林 水 産 部〕目標の成果

課 名	農 林 ・ し い た け 課
-----	-----------------

区分	項 目	対馬猪鹿活用促進事業	
1	【 内 容 】 対馬猪鹿活用促進事業を活用し、要請のあった地区に直接出向き、防護柵の位置情報、捕獲情報等の有害鳥獣対策の現状を、地域住民にフィードバックします。対策の主体は地域であり、行政は対策をサポートするため蓄積された情報を根拠に効果的な体制づくりのサポートに徹します。(行政依存体質の脱却) 被害対策を推進するための防護柵の整備については、新規柵の整備、居住区域内安全対策、家庭菜園等防護柵など、事業メニューが多いため、農業被害相談会開催時に被害対策についての正確な情報提供に努めます。 また、有害鳥獣の資源活用として食肉加工品や皮革製品等に取り組み、食べて美味しい、使って楽しい等、市民が有害鳥獣対策に関わるきっかけをポジティブなイメージにするため、普及啓発活動を実施します。特に学校給食での食材利用や、市内飲食店での活用を促進し、地域食材としての食育と、担い手育成に繋げていきます。 【 指 標 】 ①地域主導の被害対策推進地区増加数：5地区 ②地区捕獲隊増加数：5地区 ③「農業被害相談会及び防護柵要望受付」開催：15箇所 ④有害鳥獣利活用及び人材・担い手（対馬のこども達）育成 学校給食食材利用校：対馬市内の全ての小中学校 総合的学習「有害鳥獣対策」開催：2校 ⑤各種防護対策の実施	組 織 目 標	
2	①地域主導の被害対策推進地区増加数：1地区 (居住区域内安全対策として防護柵を集落周辺に設置) ②地区捕獲隊増加数：0地区 ③「農業相談会及び防護柵要望受付」開催：15箇所 ※農作物被害調査に基づき、委託業者が実施 ④学校給食食材利用校：島内全ての小中学校 総合的学習「有害鳥獣対策」開催：1校 ⑤各種防護対策の実施(国交付金、市単独補助事業を活用)		実 績 （ 成 果）
3	○ 捕獲隊設置の意向がある地区から相談はあったものの、土地所有者や地区内での話がまとまらず、捕獲隊結成まで至りませんでした。継続して協議中の地区があるので、引き続き推進していきます。 イノシシ・シカの農作物被害が減少したことは、効率のよい有害鳥獣捕獲を継続している成果であり、今後も捕獲圧をかけていくことと共に、捕獲したイノシシ・シカは資源として学校給食等に活用し、食育の推進や担い手の確保に繋がたいです。		
4	捕獲隊については、地域が主体となり、農地や居住区域等を守っていけるように、また、行政主体ではなく、あくまで地域が主役となるように引き続き推進していきます。イノシシ・シカの農作物被害額は減少傾向にあるものの、森林被害や生態系被害が深刻であるため、さらなる捕獲圧をかける必要があります。 資源活用については、多くの市民を巻き込んだ有害鳥獣対策を促進するためのツールとして、積極的に取り組み、さらには、対馬の新たな産業、雇用創出に繋がり、地域を守る事が本市の経済にとってもよい仕組みを構築する事が望まれます。		今 後 の 展 開

全体	27
個別	07-03

令和元年度〔農 林 水 産 部〕目標の成果

課 名	農 林 ・ し い た け 課
-----	-----------------

区分	項 目	学校給食地場農林水産物導入事業									
1	【 内 容 】 学校給食での地場農林水産物利用に係る食材供給について、特産・推奨品であるしいたけ・あか牛や、野菜・猪鹿肉とその加工品及び水産物購入への支援を行います。										
組織目標	【 指 標 】 地場産のたまねぎ、じゃがいもの学校給食での使用量を目標値まで増やします。										
		<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 30%;"></td> <td style="width: 30%; text-align: center;">30年度（使用割合）</td> <td style="width: 30%; text-align: center;">元年度</td> </tr> <tr> <td>・ たまねぎ</td> <td style="text-align: center;">4825.1kg (32.8%)</td> <td style="text-align: center;">→ 5000kg</td> </tr> <tr> <td>・ じゃがいも</td> <td style="text-align: center;">3347.2kg (37.4%)</td> <td style="text-align: center;">→ 3400kg</td> </tr> </table> <p>○地場産品の利用効率向上に向け、学校給食の栄養教諭、振興局、市等の関係団体で意見交換を行います。</p>		30年度（使用割合）	元年度	・ たまねぎ	4825.1kg (32.8%)	→ 5000kg	・ じゃがいも	3347.2kg (37.4%)	→ 3400kg
	30年度（使用割合）	元年度									
・ たまねぎ	4825.1kg (32.8%)	→ 5000kg									
・ じゃがいも	3347.2kg (37.4%)	→ 3400kg									
2	地場産のたまねぎ、じゃがいもの学校給食での使用量は下記のようにになりました。										
実績（成果）		<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 30%;"></td> <td style="width: 30%; text-align: center;">令和元年度</td> <td style="width: 30%;"></td> </tr> <tr> <td>・ たまねぎ</td> <td style="text-align: center;">5238.7kg (39.7%)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・ じゃがいも</td> <td style="text-align: center;">2848.0kg (33.6%)</td> <td></td> </tr> </table> <p>地場産品の利用効率向上に向け、学校給食の栄養教諭、振興局、市等の関係団体で意見交換を行いました。（2回）</p>		令和元年度		・ たまねぎ	5238.7kg (39.7%)		・ じゃがいも	2848.0kg (33.6%)	
	令和元年度										
・ たまねぎ	5238.7kg (39.7%)										
・ じゃがいも	2848.0kg (33.6%)										
3		<p>たまねぎに関しては目標数量を達成し、使用割合も増えましたが、じゃがいもに関しては目標数量には届かず、昨年度の使用割合よりも減りました。</p> <p>また、平成28年度から実施してきたたまねぎとじゃがいもの農協による一括買取及び供給が困難となり、令和元年度で終了しました。</p>									
評価	△										
4		<p>地場産野菜の使用割合を高めるため、農家や農協に協力を仰ぎながら、安定して供給できる体制を検討し、目標達成に向けて取り組みます。</p>									
今後の展開											

全体	28
個別	07-04

令和元年度〔農 林 水 産 部〕目標の成果

課 名	水 産 課
-----	-------

区分	項 目	島内での供給システムの構築
1	【 内 容 】	<p>生産者と販売業者の双方が、新鮮で豊かな食材を地元へ提供するため、一体化した島内での地元産鮮魚・活魚等の供給システムを構築することにより、観光消費も含めた島内消費額の拡大を図ります。</p> <p>【 指 標 】</p> <p>(1) 地域商社を核とした具体的手法の検討</p> <p>(2) 流通実証試験の実施</p> <p>(3) 島内流通実証試験の実施</p>
組織目標		
2	【 実 績 (成 果) 】	<p>(1) 市内の宿泊業・飲食業者に対して対馬産鮮魚等の取扱い状況に関する実態調査を実施し、地域商社を核とした具体的手法の検討を関係機関で行いました。</p> <p>(2) 前述の実態調査結果をもとに、1事業者の協力を得て島内流通実証試験を行いました。</p> <p>(3) 1事業者の協力を得て島内流通実証試験を行いました。</p>
実績(成果)		
3	【 評 価 】	<p style="text-align: center;">○</p> <p>対馬産品の島内流通実証試験の実施により、今後の流通体制構築における課題等の洗い出すことができました。</p>
評価		
4	【 今 後 の 展 開 】	<p>今後も引き続き課題の解決に向けて取り組み、地域商社を核として生産者と販売業者の意向を聞き取り、関係者間での協議・検討の場を設け、流通体制の構築を進めていきます。</p>
今後の展開		

全体	29
個別	07-05

令和元年度〔農 林 水 産 部〕目標の成果

課 名	水 産 課
-----	-------

区分	項 目	水産物の輸送費補助
1	組織目標	<p>【内容】 水産物を島外へ出荷する際及び餌移入に係る輸送コストを支援することで、漁業者の所得確保と漁業の発展へ繋がります。</p> <p>【指標】 220万箱以上分の輸送及び餌移入の助成を行い、漁業者の負担軽減を図ります。</p>
2		<p>実績として、漁獲高の減少、新型コロナウイルスの影響もあり、海上が鮮魚963,158箱と2,051,112kg、活魚589,344kg、空路が、鮮魚が49,200kg、活貝48,734kg、移入が冷凍餌1,800,505kg、配合餌11,799kgとなり、全体で箱換算で187万箱となりました。</p>
3	評価	<p>目標値に対して85%の達成となりましたが、輸送コストは漁獲量に比例することから、漁獲減に伴い輸送量も減少しました。しかしながら、漁獲量が減少した漁業者に対して、輸送コストの負担軽減をすることにより、安定した漁業経営に寄与しています。</p>
4		<p>輸送コストを軽減することにより、漁業者の経営を安定化させ、新たな雇用や所得向上、新たな販売先の開拓など、漁業の発展に繋がります。</p>
	今後の展開	

全体	30
個別	07-06

令和元年度 [農 林 水 産 部] 目標の成果

課 名	水 産 課
-----	-------

区分	項 目	海洋保護区の設定
1	【 内 容 】	<p>水産資源の持続的利用と伝統的な漁業の継承を図るため「海洋保護区」の設定を目指します。設定推進協議会は、科学的根拠に基づく科学委員会の答申や漁業者、関係団体等からの意見を検討して、区域設定や区域内の資源管理計画を策定し、国や県などに働きかけ、対馬らしい海洋保護区の設定を目指します。</p>
組織 目標	【 指 標 】	<p>①対馬版海洋保護区の設定に向け、対馬海洋保護区「しまうみ」管理計画等の実行に取り組みます。 ②藻場の保全、再生の取組の一環として、食害生物の商品化に関する調査研究や藻場環境の情報共有に関する調査研究を行います。 ③九州大学等外部研究機関との連携を深めます。 ④対馬の豊かな海の魅力及び重要性について広く市内外にPRします。 ⑤資源管理活動のデータ化を行います。</p>
2	実績 (成果)	<p>①対馬版海洋保護区の設定に向け、対馬海洋保護区「しまうみ」管理計画等に基づく取組みを実行しました。 ②食害生物の商品化や対馬沿岸に適した海藻等について調査研究を行いました。 ③九州大学等と連携し、藻場の保全・再生に係る海藻類等について調査研究を行いました。 ④対馬市国境の島・海の魅力発信隊と協力し市内外にPRしました。 ⑤資源管理活動のデータ化を行いました。</p>
3	評価	<p>○ 対馬版海洋保護区設定に向け、まずは共同漁業権海域を対象とした基本計画：対馬海洋保護区「しまうみ」管理計画と実行計画：水産資源管理計画【磯資源】及び対馬沿岸藻場再生計画に基づいた取組みを実行しました。 藻場再生の取組の一環として、食害魚の商品化や対馬沿岸に適した海藻等についての調査研究を行い、藻場の保全に努めました。 その他、対馬の豊かな海の魅力及び重要性を市内外に啓発するため対馬市国境の島・海の魅力発信隊と協力し、市内外にPRしました。</p>
4	今後の 展開	<p>引き続き対馬版海洋保護区設定に向け、水産資源の適切な管理や藻場の保全再生等、できることから取り組んでいきます。また、対馬の豊かな海の魅力及び重要性について広く市内外にPRします。</p>

全体	31
個別	07-07

令和元年度〔農 林 水 産 部〕目標の成果

課 名	基 盤 整 備 課
-----	-----------

区分	項 目	基盤整備工事の早期発注、早期完成
1	【 内 容 】 農林道整備、漁港漁場整備等の公共工事は、第一次産業の基盤整備として、農林水産業従事者の所得向上を目指すものです。 その中で事業の早期着工は、市の経済流通の初動を促し、市民生活を活性化させると共に、早期完成は市民の生活基盤の底上げにつながるものであり、本年度においても計画的な発注を行い年内に委託業務完了100%及び工事の執行100%に努めます。 【 指 標 】 令和元年度 建設工事発注予定額 1,039百万円 令和元年度 建設工事発注予定件数 委託 8件 工事 17件 12月 委託業務完了予定額 100%目標 (122百万円) 12月 委託業務完了予定件数 委託 8件 12月 工事執行予定額 100%目標 (917百万円) 12月 工事執行予定件数 工事 17件	組織 目 標
2	令和元年12月 委託業務完了額 実績額 122百万円中、95百万円 77.9% 令和元年12月 委託業務完了件数 実績件数 8件中、5件 62.5% 令和元年12月 工事執行額 実績額 917百万円中、504百万円 55.0% 令和元年12月 工事執行件数 実績件数 17件中、13件 76.5%	実 績 （ 成 果）
3	早期着工については、国の早着認可制度等を利用して行いましたが、新規着手工種の許認可事務及び、測量、調査、設計等の委託業務や地元協議に時間を要した事により、本工事着手が遅れ目標100%達成が出来ませんでした。	評 価 △
4	新規工種の断面決定を行い、計画的に各種事務処理手続きを完了させ、工事の早期完成を目指します。 また、地元要望に迅速に対応するため、関係者と連携を取りながら適切かつ有効な事業計画の立案に努めます。	今 後 の 展 開

全体	32
個別	08-01

令和元年度 [建 設 部] 目標の成果

課 名	管 理 課
-----	-------

区分	項 目	市営住宅使用料未収金の縮小																		
1	【 内 容 】 対馬市営住宅家賃滞納整理事務要綱に基づき未収額の縮小に努めます。 ①滞納者には、退去者にかかわらず文書、訪問等による督促、徴収事務を行い、長期滞納者に対しては文書による確約等を締結し、分納指導を実施します。特に滞納繰越分の徴収率向上に向け努力します。 ②確約不履行等の悪質滞納者には、裁判所による明け渡し命令等の法的手続きを検討します。 【 指 標 】 市営住宅使用料徴収率（現年分＋滞納分） 90.00%（前年度実績84.79%） （上段：目標、下段：実績）																			
組織目標																				
		<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R元</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>91.00%</td> <td>91.00%</td> <td>90.00%</td> <td>90.00%</td> <td>90.00%</td> <td>90.00%</td> </tr> <tr> <td>85.28%</td> <td>84.01%</td> <td>83.62%</td> <td>84.79%</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		H27	H28	H29	H30	R元	91.00%	91.00%	90.00%	90.00%	90.00%	90.00%	85.28%	84.01%	83.62%	84.79%		
	H27	H28	H29	H30	R元															
91.00%	91.00%	90.00%	90.00%	90.00%	90.00%															
85.28%	84.01%	83.62%	84.79%																	
2	市営住宅使用料の徴収率 現年分 97.41% 滞納分 22.55% 計 85.79%																			
実績（成果）		<table border="1"> <thead> <tr> <th>市営住宅使用料</th> <th>現年分</th> <th>滞納分</th> <th>合計（単位：円）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>調定額</td> <td>139,310,100</td> <td>25,598,380</td> <td>164,908,480</td> </tr> <tr> <td>収入実績</td> <td>135,702,900</td> <td>5,772,200</td> <td>141,475,100</td> </tr> <tr> <td>徴収率</td> <td>97.41%</td> <td>22.55%</td> <td>85.79%</td> </tr> </tbody> </table>	市営住宅使用料	現年分	滞納分	合計（単位：円）	調定額	139,310,100	25,598,380	164,908,480	収入実績	135,702,900	5,772,200	141,475,100	徴収率	97.41%	22.55%	85.79%		
市営住宅使用料	現年分	滞納分	合計（単位：円）																	
調定額	139,310,100	25,598,380	164,908,480																	
収入実績	135,702,900	5,772,200	141,475,100																	
徴収率	97.41%	22.55%	85.79%																	
3	△	<ul style="list-style-type: none"> ・滞納者に対し、文書による督促事務を行い、納付依頼を実施致しました。また、個別訪問による徴収も実施しております。 ・督促文書送付で未払い者（退去者問わず）に対し、訪問・文面による納付確約又は連帯保証人へ納付指導を行いました。 ・生活困窮者に対しては、保護課等と各対象世帯の事情を調査し、収入を上げられる方策を考え、実行し徴収率を上げました。 ・最終的に徴収率は前年度より上がりましたが、目標値には達成しませんでした。 																		
4		<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、年間を通しての対面による納付依頼を強化し、滞納対策に取り組みます。 																		
今後の展開																				

全体	33
個別	08-02

令和元年度 [建 設 部] 目標の成果

課 名	建 設 課
-----	-------

区分	項 目	公共工事の早期発注、早期完成
1	【 内 容 】	
組 織 目 標		公共工事の早期着工に努めることにより、市の経済流通の初動を促進し、市民生活の活性化とともに、早期完成によって市民の生活基盤の底上げを図ります。
	【 指 標 】	<p>1 2月末設計書作成件数及び予定額（測量・調査・設計）</p> <p style="padding-left: 40px;">4 件 13 百万円 《100%目標》</p> <p>1 2月末設計書作成件数及び予定額（工事）</p> <p style="padding-left: 40px;">12 件 411 百万円 《100%目標》</p>
2	実績（成果）	<p>（測量・調査・設計）</p> <p>令和元年度12月末設計書作成件数 5 件</p> <p>令和元年度12月末発注額 10 百万円</p> <p>（工事）</p> <p>令和元年度12月末設計書作成件数 13 件</p> <p>令和元年度12月末発注額 189 百万円</p> <p>※災害発生件数 道路 11件 河川 10件 査定額 149百万円</p>
3	評価	<p>◎</p> <p>組織目標に掲げた設計書作成件数につきましては、委託及び工事ともに、目標に達しているものの交付金の減額に伴い、発注額は目標値の5割にも及びませんでした。しかしながら7月から9月にかけて発生した災害21件への対応、また、その査定額が約1億5千万円に達し、十分な成果であったと考えます。</p> <p>参考として、平成30年度の総発注件数（委託及び工事）105件中依頼関係が63件あり、うち53件を12月末までに発注しています。</p>
4	今後の展開	公共工事の早期着工に努めることにより、市の経済流通の初動を促進し、市民生活の活性化とともに、早期完成によって、市民の生活基盤の底上げを図るものことから、今後におきましても早期発注、早期完成に努めます。

全体	34
個別	09-01

令和元年度〔水道局（部）〕目標の成果

課名	水道課
----	-----

区分	項目	水道料金の収納率向上																		
1	【内容】 経営の効率化と健全な事業運営を図るためには、水道料金の収納率向上は喫緊の課題であり、今年度も前年度に引き続き、新規滞納者の発生予防、納付確約（分納）の取り組み強化、給水停止の強化に取り組みます。 ① 新規滞納者の減少 ② 納付確約（分納）者の取り組み強化 ③ 給水停止措置の強化 【指標】 収納率（現年度分）、97.0%を目標に取り組みます。 （平成30年度実績 96.64%）																			
2	実績（成果）	<p>収納率</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th></th> <th>令和元年度</th> <th>平成30年度</th> <th>対前年度比</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">対馬市水道事業</td> <td>現年度分</td> <td>96.73%</td> <td>96.64%</td> <td>0.09%</td> </tr> <tr> <td>過年度分</td> <td>60.07%</td> <td>61.75%</td> <td>△1.68%</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>94.99%</td> <td>95.14%</td> <td>△0.15%</td> </tr> </tbody> </table>			令和元年度	平成30年度	対前年度比	対馬市水道事業	現年度分	96.73%	96.64%	0.09%	過年度分	60.07%	61.75%	△1.68%	計	94.99%	95.14%	△0.15%
		令和元年度	平成30年度	対前年度比																
対馬市水道事業	現年度分	96.73%	96.64%	0.09%																
	過年度分	60.07%	61.75%	△1.68%																
	計	94.99%	95.14%	△0.15%																
3	評価	<p>△</p> <p>滞納者に対し、定期的に督促及び催告を実施し、また、給水停止等の措置を講じ、前年度を0.09%上回りましたが、目標には0.27%到達することができませんでした。</p>																		
4	今後の展開	<p>今後も、滞納者に対しての督促、催告等の納付指導を継続して行い、また、長期（3か月以上）の滞納者に対しては、給水停止の措置を強化し、納付意識の高揚に努めていきます。</p>																		

全体	35
個別	09-02

令和元年度〔水道局（部）〕目標の成果

課名	水道課
----	-----

区分	項目	水道事業の有収率向上					
1	組織目標	<p>【内容】</p> <p>水道事業を経営していく中で、有収率（浄水場で清浄化された水量と実際に家庭等の蛇口から出て使われた水量の割合）対策は、重要な課題となっております。</p> <p>対馬市の水道事業の有収率は、近年、70%前後を推移しており、平成30年度は、71.68%と前年度に比べ若干改善しましたが、漏水などによりまだまだ浄水場で作られた水の3割程が有効に活用できていない状況です。</p> <p>今後も年次的に配水管等の漏水対策を行い、引き続き有収率の向上に努めていきます。</p> <p>【指標】</p> <p>令和元年度有収率を、72.70%以上にします。 （平成30年度有収率：71.68%）</p>					
2		<p>有収率</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th>令和元年度</th> <th>平成30年度</th> <th>対前年度比</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">72.83%</td> <td style="text-align: center;">71.68%</td> <td style="text-align: center;">1.15%</td> </tr> </tbody> </table>	令和元年度	平成30年度	対前年度比	72.83%	71.68%
令和元年度	平成30年度	対前年度比					
72.83%	71.68%	1.15%					
3	評価	<p>○</p> <p>配水管等の漏水調査の実施及び漏水箇所の早期修繕対応などを行った結果、前年度を1.15%上回り、目標値を0.13%上回ることができました。</p>					
4		<p>今後の展開</p> <p>今後も、引き続き老朽管等の布設替え等の対応を年次的に行い、更なる有収率の向上に努め、有収率の向上を目指します。</p>					

全体	36
個別	10-01

令和元年度〔中対馬振興部〕目標の成果

課名	地域振興課
----	-------

区分	項目	中対馬未来づくりアクションプランの推進
1	【内容】 平成30年3月に策定した中対馬未来づくりアクションプランにより、地域資源や観光・産業の実態から浮かび上がる課題を踏まえた上で、新たな価値創造のために重要なターゲットと考えられる「世界のすべての女子」に着目し、リトリート（癒やし）とアクティビティ（体験）の創出による観光客をきっかけとした活性化・地域振興を目指します。	
組織目標	【指標】 ・キャンプ場再整備事業 →2人用コテージ4棟建設に向けた実施設計 ・青海の花畑スポット整備 →PCフェンス設置（約310m）及びワイヤーメッシュ設置（約1,200m）の設置 ・シーカヤック・SUPインストラクター養成事業 →シーカヤックインストラクター10名、SUPインストラクター5名の養成 ・対馬スイーツ料理教室の開催 →料理教室を5回開催 ・その他次年度実施事業に向けた準備 →令和2年度から実施予定のDIY教室、定置網体験事業について関係者との協議を行います。	
2	実績（成果）	<ul style="list-style-type: none"> ・キャンプ場整備につきましては、設計を完了しました。 ・PCフェンス並びにワイヤーメッシュにつきましては、設置完了しました。 ・シーカヤックにつきましてはインストラクター5人を認定し、3名が受講中で令和2年度で認定を予定しております。SUPについては8人を認定しました。 ・スイーツ教室を2回開催しております。 ・その他次年度実施事業に向けた準備につきましては、DIYおよび定置網体験の協議を行い、令和2年度中に開始できるよう準備を進めております。
3	評価	<p style="text-align: center;">○</p> <p>おおむね目標に近い事業が行えたところではありますが、インストラクターにつきましては、養成後の受け入れ態勢の構築等が必要であるため、継続協議を行い、受け入れの早期実施に繋がっていきたいと考えております。また、スイーツについては、料理教室の開催にとどまっておりますので、ご当地スイーツの製作にむけ、食材の選定や試作品の製作等に取り組んでいきたいと考えております。</p>
4	今後の展開	<p>評価欄と重複する部分もありますが、インストラクターの受け入れ態勢の構築及び、ご当地スイーツ開発に向けた食材の選定及び試作品づくりに取り組み次年度には試食会等を実施し、商品の開発に繋がっていきたいと考えております。また、DIYや定置網体験につきましても令和2年度に体制づくりに取り組み、令和3年度から本格実施に繋がっていきたいと考えております。</p>

全体	37
個別	11-01

令和元年度〔上 対馬 振興部〕目標の成果

課名	地域振興課
----	-------

区分	項目	対馬の自然を活かした観光地の整備
1	【内容】 ○三字田キャンプ場改修 日本の渚百選である三字田浜のロケーションを活かし、施設利用者のニーズに対応したキャンプ施設の改修に取り組みます。	
組織目標	【指標】 ・管理棟の新設	
2	三字田浜園地リニューアル整備事業については、基本・実施設計を策定し、それを基に管理棟を新築しました。	
実績（成果）	・令和元年8月末に基本・実施設計を策定 ・令和2年3月に管理棟完成	
3	基本・実施設計の策定によりキャンプ場をリニューアルする上での必要な申請がスムーズに行えるようになりました。 管理棟については予定通り完成することができ、利用客の施設利用についての管理がしやすくなりました。	
評価	○	
4	引き続き、基本・実施設計に基づいて事業を実施します。	
今後の展開		

全体	38
個別	11-02

令和元年度〔上 対 馬 振 興 部〕目標の成果

課 名	北 部 建 設 事 務 所
-----	---------------

区分	項 目	公共工事の早期発注、早期完成			
1	【 内 容 】	地域経済の活性化と島内交通の利便性の向上を図るために、公共工事の早期発注及び早期完成に取り組みます。			
	【 指 標 】	1 2 月末発注件数及び予定額 (測量・調査・設計委託) (工事)			
組織 目 標	総務費	5 件	7 4 百万円		
	農林水産業費	1 件	7 百万円	3 件	1 0 7 百万円
	土木費	4 件	2 2 百万円	8 件	2 6 0 百万円
2	1 2 月末発注件数及び契約額 (測量・調査・設計委託) (工事)				
	総務費	4 件	4 8 百万円		
実績 (成 果)	農林水産業費	1 件	7 百万円	3 件	1 0 2 百万円
	土木費	3 件	1 5 百万円	6 件	1 1 2 百万円
	年度内完成件数				
	委託	8 件			
	工事	5 件			
3	△	組織目標に掲げた公共工事の早期発注については、設計等の委託業務は達成できましたが、工事に関しては7月に発生した災害の復旧業務を優先したため3件が1月以降の発注となりました。			
		また、早期完成については、発注が遅れたことで4件の工事を繰り越す結果となり、目標を達成することができませんでした。			
4	今 後 の 展 開	引き続き、公共工事の早期発注及び早期完成に取り組み、事業の早期効果と市民生活の利便性向上に努めて参ります。			

全体	39
個別	12-01

令和元年度〔対馬市消防本部〕目標の成果

課名	総務課
----	-----

区分	項目	地区消防団員の増員、車両の適正配備及び資機材の充実配備
1	組織目標	<p>【内容】</p> <p>消防団員の実員数は、機能別消防団員と女性消防団員の加入により増加傾向にありますが、依然として定数を割り込んでいる状況です。したがって、今年度も消防団員の増員を図るとともに消防団車両や資機材等の充実強化を行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 各地区基本消防団員の増員を図ります。 ● 消防団車両の適正配備計画に沿った車両更新等を進めます。 ● 消防団資機材等の点検、故障等を無くし充実配備を図ります。 <p>【指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 消防団員の増員・・・1,500人（定員 1,600人） （平成31年4月1日現在1,475人） ● 消防団車両の適正配備・・・小型動力ポンプ付積載車（軽4台、普通2台） ● 消防団資機材・・・防火衣20着、発電機3基
2	実績（成果）	<ul style="list-style-type: none"> ・消防団員の増員・・・1,498人（昨年度末より33人増） ・消防団車両の適正配備・・・小型動力ポンプ付積載車（軽4台、普通2台）納車 ・消防団資機材・・・防火衣10着、発電機3基
3	評価	<div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="font-size: 2em; margin-right: 10px;">△</div> <div> <p>消防団員の増加については、昨年より33人増加しました。</p> <p>消防団員の安全装備品配備については防火衣が計画より10着減での配備となり、車両の配備は計画通りできました。</p> </div> </div>
4	今後の展開	引き続き、消防団員の確保及び年次計画に基づいて車両等適正配備を進めます。

全体	40
個別	12-02

令和元年度 [消 防 本 部] 目標の成果

課 名	警 防 課
-----	-------

区分	項 目	応急手当の普及啓発活動																																														
1	【 内 容 】 昨年度の市民によるAED使用実績は1件でした。対馬島内に設置されたAEDを有効活用するために、市民の皆様に対し、実際の市民による勇気ある行動を例に挙げながら、継続して応急手当の普及啓発活動、目標達成に取り組みます。また、CATVによる応急手当推進広報についても、昨年度内容を更新するとともに、対馬島内における応急手当の意識向上及び救命率の向上を図ります。 【 指 標 】 数値的な目標実績に併せて、市民の皆様が応急手当に対する理解を深め、バイスタウンダーとして勇気ある手当を実施できるよう、継続して普通救命講習及び救急法等の指導推進を展開致します。 ○目標受講者数：延べ1,300名	組 織 目 標																																														
2	応急手当普及活動実績（過去3年）	実 績 （ 成 果）																																														
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th style="width: 20%;">講習種別</th> <th colspan="2">29年度中</th> <th colspan="2">30年度中</th> <th colspan="2">令和元年度中</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総受講者数</td> <td>50回</td> <td>1,187名</td> <td>46回</td> <td>1,275名</td> <td>61回</td> <td>995名</td> </tr> <tr> <td>普通救命講習</td> <td>17回</td> <td>182名</td> <td>21回</td> <td>331名</td> <td>30回</td> <td>266名</td> </tr> <tr> <td>救急法講習</td> <td>33回</td> <td>1005名</td> <td>25回</td> <td>944名</td> <td>31回</td> <td>729名</td> </tr> </tbody> </table> <p>市民によるAED使用の救急事案状況（過去3年）</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th colspan="2">平成29年度</th> <th colspan="2">平成30年度</th> <th colspan="2">令和元年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>AED使用件数</td> <td>4件</td> <td>AED使用件数</td> <td>1件</td> <td>AED使用件数</td> <td>4件</td> </tr> <tr> <td>ショック適応件数</td> <td>3件</td> <td>ショック適応件数</td> <td>0件</td> <td>ショック適応件数</td> <td>0件</td> </tr> </tbody> </table>			講習種別	29年度中		30年度中		令和元年度中		総受講者数	50回	1,187名	46回	1,275名	61回	995名	普通救命講習	17回	182名	21回	331名	30回	266名	救急法講習	33回	1005名	25回	944名	31回	729名	平成29年度		平成30年度		令和元年度		AED使用件数	4件	AED使用件数	1件	AED使用件数	4件	ショック適応件数	3件	ショック適応件数	0件	ショック適応件数	0件
講習種別	29年度中		30年度中		令和元年度中																																											
総受講者数	50回	1,187名	46回	1,275名	61回	995名																																										
普通救命講習	17回	182名	21回	331名	30回	266名																																										
救急法講習	33回	1005名	25回	944名	31回	729名																																										
平成29年度		平成30年度		令和元年度																																												
AED使用件数	4件	AED使用件数	1件	AED使用件数	4件																																											
ショック適応件数	3件	ショック適応件数	0件	ショック適応件数	0件																																											
3	△	評 価																																														
<p>目標受講者数1,300名に対し、995名の市民が応急手当講習を受講され、目標達成率は77%でした。目標受講者数には届かなかったものの、AEDの設置場所についてはCATV等を活用し市民にも多く認知されつつあり、また、救急隊が患者接触時には、心肺蘇生が施されている現場も増加傾向にあります。令和2年度も、コロナウィルス感染症の影響はあるかと思われませんが、引き続き市民の皆様へ応急手当及びAEDの効果や重要性を指導推進し、島内における救命のリレー向上を目指します。</p>																																																
4	今 後 の 展 開																																															
<p>今後も継続して市民の皆様に応急手当の重要性、普及啓発を図ります。119受報時の口頭指導に併せて、AED設置位置の情報を提供致します。また、実際の救急事案の救命リレー成功例を市民の皆様周知しながら、更なる対馬島内における救命リレーの質の向上を図り、傷病者の社会復帰を最終目標に普及啓発活動を展開致します。</p>																																																

全体	41
個別	12-02

令和元年度〔対馬市消防本部〕目標の成果

課名	予防課
----	-----

区分	項目	違反公表制度に伴う消防用設備等設置指導
1	【内容】	1 重大違反對象物に対し、早期の立入検査を実施します。 2 重大違反對象物に対し、公表後の違反処理への移行等を十分説明し、消防用設備等を早期設置の指導を行います。
組織目標	【指標】	1 重大違反對象物は現在2施設3棟存在するため、立入検査、電話において指導を実施し重大違反對象物「0」を目指します。
2	実績（成果）	1 重大違反對象物が現在2施設3棟存在しています。立入検査、毎月の電話指導を実施しておりますが、違反是正には至っておりません。しかし、1施設2棟は改修計画が提出され、現在消防設備業者へ見積を依頼し、違反是正へと進んでいます。
3	評価	<div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="font-size: 2em; margin-right: 10px;">△</div> <div> 立入検査、電話指導により重大違反對象物への指導を実施していますが、現在も2施設3棟の重大違反對象物が存在します。しかし、1施設2棟は改修計画の提出、消防設備業者への見積書依頼により改修への移行が見られます。 </div> </div>
4	今後の展開	引き続き、重大違反對象物に対し、立入検査、電話により消防用設備等の早期設置指導を行っていきます。

全体	42
個別	13-01

令和元年度〔教育委員会事務局〕目標の成果

課名	教育総務課
----	-------

区分	項目	島っこ留学制度による留学生の招致推進
1	【内容】 「島っこ留学制度」は、豊かな学びと地域における体験活動等を願う島外の方を対象に、市内の小・中学校に入学または転学を希望される児童・生徒を受け入れ、対馬市の学校並びに地域の活性化と教育の振興・充実を図る事を目的として平成27年11月からスタートした制度です。 複式学級の解消等も考慮し、西小校区、仁田小校区及び新たな校区での受入を推進するとともに、体験留学、広報事業の充実と里親の追加募集を行います。	
組織目標	【指標】 ○留学生招致 3名以上（小学生若しくは中学生） →体験留学（5組10名程度）を実施します。 →HP・SNSに重点をおいた情報発信や広報事業を実施します。 →福岡での事業説明会を実施します。 →里親を追加募集し、受入体制の整備を行います。	
2	里親として仁田地区に2名の確保ができました。 令和元年度10名の留学生のうち継続4名と、令和2年度新規で6名の留学生を招致できました。	
実績（成果）	<ul style="list-style-type: none"> ・西部中学校 3名（2年男子 2名、3年男子 1名） ・仁田小学校 2名（4年男子 1名、5年男子 1名） ・仁田中学校 5名（2年男子 2名、2年女子 3名） <p style="text-align: right;">合計10名</p>	
3	<ul style="list-style-type: none"> ・当初の2年間は招致ができませんでしたが、平成29年度は4名、30年度は7名、令和元年度は6名の留学生招致に成功しました。 ・体験留学では、3世帯6名の参加者があり、3名全員から申込みがあったが受入の関係で2名の受入となりました。 ・福岡事業説明会に5家族の参加者があり、全員が留学生となりました。 ・事前視察を9家族受け入れ、うち4名が留学生となりました。 ・広報・啓発事業は専門業者と委託契約し、ホームページの運営・更新、活動写真撮影、SNS等による情報発信、チラシ作成を実施しました。 	
評価	◎	
4	<ul style="list-style-type: none"> ・里親を確保するため再度募集をかける必要がありますが、非常に困難な状況です。 ・受入体制の充実を図ることが急務であります。 ・SNS等インターネットを利用した広報活動や情報発信に重点をおいて展開する必要があります。 ・体験留学は、可能性が高い世帯を選出し、効果を高める必要があります。 	
今後の展開		

全体	43
個別	13-02

令和元年度〔教育委員会事務局〕目標の成果

課名	学校教育課
----	-------

区分	項目	ふるさと対馬を愛し、豊かな心と確かな学力を身に付けた子どもの育成
1	組織目標	<p>【内容】</p> <p>【対馬の未来を担う人材育成のための教育の推進】</p> <p>1. 確かな学力を身に付けた児童生徒の育成 2. 心豊かでたくましく、郷土を愛する児童生徒の育成 3. 生徒指導及び特別支援教育の充実 4. 校種間連携、地域との連携の推進 5. 幼稚園・こども園教育の充実</p> <p>【指標】</p> <p>1. 確かな学力を身に付けた児童生徒の育成 (1) 学校訪問時及び各種研修会における指導助言 (2) ICTを活用した授業支援、研修会の実施</p> <p>2. 心豊かでたくましく、郷土を愛する児童生徒の育成 (1) ふるさと学習及び総合的な学習の時間の全体計画作成 (2) 部活動休養日の設定 (3) フッ化物洗口推進事業</p> <p>3. 生徒指導及び特別支援教育の充実 (1) SSW及びSCとの連携と効果的活用 (2) 教育支援委員会の充実</p> <p>4. 校種間連携、地域との連携の推進 (1) 中学校と高等学校の連携強化</p> <p>5. 幼稚園・こども園教育の充実 (1) 特色ある園づくり</p>
		実績（成果）
3	評価	<p>各種研修会や学校訪問、研究指定校事業などを計画通りに実施し、教職員への指導や助言を通して、目標の実現に努めることができました。</p> <p>○ (1) 確かな学力の定着に向けて、指導法改善研修会や複式指導法研修会等の各種研修会を実施して教職員の指導力向上に努めることができました。 (2) 学校訪問等の際に、道徳の授業参観や授業づくりの指導を行い、道徳教育の充実につなげることができました。</p>
		<p>(1) ふるさと学習の一層の充実に資するため、各学校の全体計画の工夫や、校種間連携を意図した学習内容の整理を指導します。 (2) ICT機器の効果的かつ積極的な活用を促す研修の充実に努めるとともに、校務支援システムの効果的な活用を通して、教職員の働き方改革を推進します。</p>
4	今後の展開	

全体	44
個別	13-03

令和元年度〔教育委員会事務局〕目標の成果

課名	生涯学習課
----	-------

区分	項目	地域の特徴を活かした生涯学習の推進
1	組織目標	<p>【内容】</p> <p>○しまの魅力に出会う 日本の宝「しま」交流支援事業対馬市コースの実施 県内すべての子どもたちを対象として、「しま」ならではの体験を通して、島と本土の子どもたちの相互交流を深めるとともに、ふるさとを愛する心やコミュニケーション能力の育成、国境離島の重要性や必要性を認識させるような事業を実施します。</p> <p>実施期間：7月27日（土）～30日（火）</p> <p>【指標】</p> <p>○参加者数 60人（市外参加者40人、市内参加者20人） ○大学生ボランティア 10人 ○高校生ボランティア 10人 ○地元教職員ボランティア 10人</p>
2		<p>【内容】</p> <p>より充実した体験プログラムを企画するため実行委員会委員を平成30年度から2名増員した11名体制の実行委員会とし、昨年度に引き続き対馬市全体を網羅した形のプログラムを実施しました。また、令和元年度からの新たな取り組みとして、「対馬のPRポスター制作」をテーマとしたグループワークを行いました。</p> <p>主な体験活動は下記のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・そば打ち、ろくべえづくり体験 ・つしま講座 ・渡海船クルージング ・シーカヤック体験 <p>【成果】</p> <p>○参加者数 50人（市外参加者38人、市内参加者12人） ○大学生ボランティア 9人 ○高校生ボランティア 15人 ○地元教職員ボランティア 0人</p>
3	評価	<p>△ 「対馬のPRポスター制作」というテーマを設定し、4日間を通じたグループワークを行ったことで、対馬に対するより深い学びや参加者間のコミュニケーションが促進され、事業の目的を達成できたと言えます。また、参加者に対する事後アンケートの結果、95%が「とても楽しかった」と回答し、93%が「もう一度対馬に行きたいと思う」と回答していました。このように、参加者の満足度も高く、再度来島したいと回答する参加者も多かったことから、将来的な交流人口の拡大のためにも効果があったと言えます。</p> <p>しかし、指標としていた参加者等の人数については、昨年度59人から今年度74人に増加したものの、目標を下回る人数でした。</p>
4		<p>今後の展開</p> <p>これまでの継続した事業展開によって、参加者の体験プログラム等に関するベースが確立されてきています。今後はそのベースを活かし、内容を精査・充実させます。</p> <p>また、参加者の獲得については、2年連続で目標を下回っているため募集方法の大幅な見直しが必要と考えます。SNS等を活用した募集等も視野に入れながら改善に努めます。</p>

全体	45
個別	13-04

令和元年度〔教育委員会事務局〕目標の成果

課名	文化財課
----	------

区分	項目	文化財の保存・活用（対馬藩関連遺産群保存活用計画の策定）
1	【内容】	対馬藩関連遺産群のうち、金石城跡、旧金石城庭園の今後の保存・整備活用の方針を定めた保存活用計画を策定します。
組織目標	【指標】	「対馬藩関連遺産群保全整備委員会」を設置し、計画策定に向けた協議を行います。
2	実績（成果）	<ul style="list-style-type: none"> ・平成31年4月「対馬藩関連遺産群保存活用計画等検討委員会設置要綱」を作成し、委員会の設置について明文化しました。 ・上記要綱に基づき、対馬藩関連遺産群保存活用計画等検討委員会を設置し、対馬市内外から5人の委員に就任いただきました。 ・令和元年12月12・13日の2日間で委員会を開催し、現地視察・協議を行い各専門分野からの知見を得ました。
3	評価	<div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="font-size: 2em; margin-right: 10px;">○</div> <div>委員会設置要綱を設置し、委員会を開催して対馬市の歴史的遺産についての必要な指導及び助言を得て、保存活用計画の作成の参考資料とすることができました。</div> </div>
4	今後の展開	令和2年度も引き続き事業を継続し、委員会を複数回開催して保存活用計画策定を目指します。

全体	46
個別	13-05

令和元年度〔教育委員会事務局〕目標の成果

課名	文化財課
----	------

区分	項目	文化財の保存・活用（赤米サミット・赤米交流事業の開催）
1	【内容】	赤米栽培と、それに伴う行事が伝承されている岡山県総社市、鹿児島県南種子町、本市の3市町の関係者が一堂に会し、保存と活用について意見を交換し、友好と交流を深めるため、赤米サミットを本市で開催します。 また、3市町の子供達の交流を深めるため、岡山県総社市、鹿児島県南種子町の子供達を招き、「赤米交流事業」を開催します。
組織目標	【指標】	・赤米交流事業：8月上旬開催予定 ・赤米サミット：11月中旬開催予定
2	実績（成果）	・夏休みを利用して実施された「赤米子ども交流事業」は、台風の影響で日程の変更を余儀なくされましたが、豆殿小学校での3市町の子供交流は実施することができました。 ・赤米サミットについては全日程計画どおり実施でき、好評を得ることができました。
3	評価	◎ サミットの開催については、地元でも多くの方々に参加いただき、大変好評でした。 豆殿の赤米行事に対する理解も得られたものと思います。
4	今後の展開	令和2年度は鹿児島県南種子町でサミットを開催し、サミットと同時に「赤米子ども交流事業」も開催される予定。対馬からも参加の方向で調整中です。